

間伐推進指標林

1 大木場間伐推進指標林

(利用面を考慮した間伐)

神岡営林署

設定の目的

市場価値の高い材木を収穫する間伐技術の普及とその定着化等に活用するとともに、残存林木の成長の推移を観察し今後の間伐技術の向上に役立てる。

場 所 岐阜県吉城郡上宝村大木場国有林220林班ほ小班

面 積 0.96ha

施業等の概要

昭和25年スギ、ヒノキ植栽（スギ3,400本/ha、ヒノキ3,400本/ha）、下刈5回、除伐1回（昭和42年）、つる切り2回、枝打1回（昭和48年）間伐前の林況は、スギ、817本/ha、材積462m³/ha、ヒノキ800本/ha、材積417m³/ha

昭和61年、スギ425本/ha、材積122m³/ha、ヒノキ375本/ha、材積138m³/haを残し間伐

調査計画等

昭和61年7月に調査プロット（20m×20m）を2ヶ所設定し、3年目毎に樹高、胸高直径、収量比数、樹型級区分を調査している。

地 況

標 高：600～690m

林地傾斜：25°

土壌型：B₀

方 位：NE

林 況

平成6年7月現在の調査結果は、スギは2,380本/haで平均胸高直径34cm、平均樹高22mとなっている。

ヒノキは2,350本/haで平均胸高直径30cm、平均樹高18mとなっている。

下層には、ミズキ、ヤナギ、サワグルミ、ホオノキ等が見られる。

